

## 第六回年次大會報告書(目次)

- 一、宣言草案
  - 一、提出議案
  - 一、一般狀勢報告
  - 一、行政報告
  - 一、外部事項報告
  - 一、九州聯合會報告
  - 一、政治部報告
  - 一、昭和八年度會計報告
  - 一、金融部報告
  - 一、特別報告
  - 一、昭和八年度役員名
- 以上

## 苦闘五年を顧りみて

意儀深き五周年を迎ふに當り組合は如何にして闘争を續けて來たか如何なる仕事を爲したか此所に回顧する事も無駄ではないだろう。一言にして申せば茨の中を歩み來たに過ぎない、さうして今日やつと軌道に乗つて、ほつとした形とも例へられよう、然し乍ら其の茨の中で幾多の仕事を成し遂げ後進者の爲に道を開き架を立て、來た事は確かに言ひ得ると思ふ。

尙今少し具体的に申して見よう『ちい凡太郎やち前をんなに學校が出来なければ來年卒業したらセメントの職工だ』と親が其の子供を激励した言葉が數年前白木崎にあつたと云ふ事である、其の様に數年前に於けるセメント門司工場の職工は社會的にも其の人格を低級に見られて居た故に工場内に於ても社員が職工に對する態度なども今日とは比較にならぬ程甚しい相違であつた。

もしもあの儘だつたら二年前の如き不況時代即ち三月十日も休轉のあつた時はどんな結果に成つて居たであらうか、五年以前と今日では職工の數に於ても自然淘汰で約半數位に大体減じて居ると思ふが、之を顧りみる時は冷汗が流れるを禁じ得ない。

先覺者は一身を犠牲にして組合を組織した、而して一時は工場の八割即ち約七百名からの組合員を擁した、然るに會社側の種々なる切崩しに逢ふて脱落者が續出して一時は亦少數になつた、其後漸次擴大しつつあるも未だ組合の力は強力ではない、現在では全職工數は五百數十名に過ぎないと思ふが、それが理論からは一致せねばならぬのに現在まだ互に感情的に相争つて居る状態である。

組合員は數の上に於ては誇るに足ないが其實に於ては確かに精銳計りの揃ひたる事を明言してはばからぬ、其の理由は五ヶ年間に於ける闘争の足跡を見れば明かである。